

長野県出資等外郭団体改革状況検証シート (公益・特別法人用) 【対象決算年度:平成20年度】

1 団体の概要

団体名 (所在地)	財団法人 長野県建築住宅センター (長野市篠ノ井御幣川306番地1)		代表者	理事長 井出 和明	
設立根拠	整備法	設立年	昭和47年	県所管部局 (課)	建設部(住宅課)
設立の沿革		設立目的(寄付行為・定款上)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和47年に建築基準法に定める特殊建築物等の定期報告制度の正しい知識の普及とその事務を担う目的で財団法人長野県建築安全協会として設立</li> <li>その後多様化する県の住宅行政の付託に応えるため、各種事業を取り入れる中で昭和63年に財団法人長野県建築住宅センターに改称、改組</li> </ul>		建築物、建築設備及び工作物に関する安全対策の推進、住宅の品質確保の推進、住宅関連産業の振興、建築物等に関する情報の提供及び良好な街づくりの推進を行なうことにより、地域住民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって地域社会に貢献することを目的としている。 具体的な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物等の確認・検査及び構造計算適合性判定</li> <li>特殊建築物等の定期報告調査・検査報告の支援</li> <li>住宅の性能評価、住宅瑕疵担保保険及び完成保証業務</li> <li>住宅支援機構の適合証明に関する住宅の検査</li> </ul> 事業執行状況を示す主な指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>建築物等の確認件数(件) H17: 5,965 H18: 7,133 H19: 6,914 H20: 6,484</li> <li>建築物等の定期報告件数(件) H17: 9,772 H18: 10,369 H19: 10,440 H20: 7,833</li> <li>性能保証住宅登録件数(件) H17: 893 H18: 819 H19: 906 H20: 850</li> </ul>			
基本財産(円)	23,600,000円	うち県の出 捐額(円)	5,000,000円	県出捐率 (%)	21.2%
主な出捐者・出捐額(円)・出捐率(%) 自己資金 12,500,000円 53.0% (社)長野県建設業協会 1,600,000円 6.8% (社)長野県建築士会 1,600,000円 6.8%					

\* 役員員数は各年度当初現在、平均年齢及び平均年収は平成20年度当初現在

役員数	年 度		H17	H18	H19	H20	
	役員数	常 勤		1	2	1	1
うち県職員			0	1	0	0	
職員数	非 常 勤		16	15	16	10	
	うち県職員		2	0	1	1	
職員数	常 勤		21	23	26	27	
	うち県職員		2	0	2	2	
常勤職員計			22	25	27	28	
非常勤職員計			21	20	19	16	
県職員計(非常勤役員除く)			5	6	3	6	
役員平均年齢	65	役員平均年収(千円)	3,766	職員平均年齢	59	職員の平均年収(千円)	3,532

\* 次表は 年度の状況で、( )内は 年度

(単位:千円、%)

収益等 状況	経常収益(A)	220,593	(220,989)	県	補助金	0	(0)
	経常費用(B)	218,911	(220,129)	費	事業費	0	(0)
	経常損益(A)-(B)	1,682	(860)		運営費	0	(0)
	当期損益	1,709	(609)	受	交付金	0	(0)
財務・ 資産 関係 指標	公益事業比率	100.0	(100.0)		入	負担金	0
	経常比率	100.8	(100.3)	委託料		0	(28,620)
	人件費比率	45.3	(43.8)	貸付金		0	(0)
	管理費比率	17.8	(21.0)	出捐金		0	(0)
	事業支出伸び率	0.2	(10.1)	損失補償年度 末残高		0	(0)
	補助金等比率	0.0	(0.0)	人件費関係費 用(再掲)		0	(0)

民間(NPO含む)との競合状況

・ 建築確認・検査業務の民間開放後、中信地区に民間指定確認検査機関が1社進出し、競合状況にある。

2 団体の改革推進の状況

改革基本方針	県関与の廃止
--------	--------

改革基本方針		実施状況	
実施年月		実施年月	
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営費補助の縮減(派遣職員3人分を2人分へ)</li> <li>団体への随意契約の廃止</li> </ul>	平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営費補助の縮減(1名 8,633千円)</li> <li>県が団体に随意契約していた統計調査の廃止 発注方法を見直し民間業者と契約</li> </ul>
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員派遣の縮減(3人を2人へ)</li> <li>県職員派遣及び運営費補助の廃止</li> </ul>	平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員派遣の縮減(1名減らし、職員派遣2名)</li> <li>運営費補助の廃止(職員2名分人件費は団体負担)</li> </ul>
平成17年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員派遣及び運営費補助の廃止</li> </ul>	平成17年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員派遣の廃止</li> </ul>
		平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員1名を派遣 姉歯事件以降建築確認等の厳格化に対応するため</li> </ul>
		平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員2名を派遣 構造計算適合性判定機関の業務に対応するため</li> </ul>
		平成20年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員派遣の廃止</li> </ul>

経営計画等の策定状況

・ 公益法人改革への対応などに伴い、現時点では策定していない。

情報公開の取組状況

・ 情報公開規程に基づき公開(H14.12.3~)  
・ ホームページを開設し、業務内容を公表

監査等結果

・ 財政的援助団体等の監査(H17.12.9実施)  
 【監査結果】  
 指摘事項等なし  
 【意見】  
 1 改革基本方針の実施状況  
 今後公益法人としての存在意義について建築確認検査業務の事業割合や制度のあり方を公益事業を含めた県の対応により再検討していくこと。  
 2 耐震性検査  
 今後の建築確認検査、構造計算のあり方について県民の期待に応える方策を実行していくこと。  
 3 品質管理体制の強化  
 今後、耐震強度偽装問題を契機に抜本的な法令改正等が予想されるため、研修の充実や内部検査体制の強化を進め、県民の期待に応えること。

団体の課題等

〔団体記載欄〕	〔県記載欄〕
公益法人制度改革における対応について 確認検査業務の円滑化と業務範囲拡大について 住宅瑕疵担保履行法への円滑な移行について	公益法人制度改革に伴う法が平成20年12月1日から施行されたことに伴い、センターは指定確認検査機関であるとともに、一連の建築基準法の改正により構造計算適合性判定機関など新たな公的業務を担う機関となっていくことから移行期間内での対応。  住宅瑕疵担保履行法の施行に伴い、法律により認可された保険法人(住宅保証機構)が全国一律のサービス(公的な機関としてサービスを担保する)を実施するため、長野県内の保険・検査業務を担う機関にセンターが指定されていることから検査渋滞が生じない円滑な業務運営への対応。

〔財務の状況〕(公益・特別法人用)

団体名:財団法人長野県建築住宅センター

正味財産増減計算書

(単位:千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
一般正味財産増減の部	経常増減の部			
	経常収益(A)	200,797	220,989	220,593
	うち基本財産運用益	6	90	91
	うち受取会費			
	うち事業収益	199,297	218,935	219,484
	うち受取補助金等			
	うち受取国庫補助金			
	うち受取県補助金			
	うち受取市町村補助金			
	経常費用(B)	188,872	220,129	218,911
	うち事業費	138,233	173,999	179,907
	うち公益事業費	188,872	220,129	218,911
	うち給料手当	68,539	83,377	80,872
	うち管理費	50,640	46,130	39,004
	うち役員報酬	16,411	3,544	3,766
うち給料手当	7,071	9,418	14,482	
経常増減(損益)額(C)=(A)-(B)	11,925	860	1,682	
経常外増減の部				
経常外収益(D)	0	0	27	
経常外費用(E)	0	251	0	
経常外増減額(F)=(D)-(E)	0	251	27	
一般正味財産増減(当期損益)額(G)=(C)+(F)	11,925	609	1,709	
一般正味財産期首残高(H)	124,676	136,601	137,210	
一般正味財産期末残高(I)=(G)+(H)	136,601	137,210	138,919	
指定増減正味の部				
受取補助金等	0	0	0	
うち受取国庫補助金				
うち受取地方公共団体補助金				
当期指定正味財産増減額(J)	0	0	0	
指定正味財産期首残高(K)	11,100	11,100	11,100	
指定正味財産期末残高(L)=(J)+(K)	11,100	11,100	11,100	
当期正味財産増減額(M)=(G)+(J)	11,925	609	1,709	
正味財産期首残高(N)	135,776	147,701	148,310	
正味財産期末残高(O)=(M)+(N)	147,701	148,310	150,019	

貸借対照表

		平成18年度	平成19年度	平成20年度
資産	流動資産	81,028	86,582	81,975
	うち現金預金	74,192	73,998	71,720
	固定資産	75,584	76,355	78,729
	基本財産	23,600	23,600	23,600
	うち土地			
	うち投資有価証券			
	特定財産	44,587	46,687	46,455
	うち退職給与引当資産	3,302	3,574	3,830
	うち減価償却引当資産	6,285	8,113	7,626
	その他の固定資産	7,397	6,068	8,674
資産合計	156,612	162,937	160,704	
負債	流動負債	5,609	11,054	6,855
	うち短期借入金			
	うち未払金	5,609	4,415	2,197
	固定負債	3,302	3,574	3,830
	うち長期借入金			
うち退職給与引当金	3,302	3,574	3,830	
負債合計	8,911	14,628	10,685	
正味財産	指定正味財産	11,100	11,100	11,100
	うち基本財産への充当額	11,100	11,100	11,100
	うち特定資産への充当額			
	一般正味財産	136,601	137,209	138,919
	うち基本財産への充当額	12,500	12,500	12,500
うち特定資産への充当額	44,586	46,687	46,455	
正味財産合計	147,701	148,309	150,019	
負債及び正味財産合計	156,612	162,937	160,704	